



## とんどでそばを振る舞う

そば打ち教室・12/21 とんど・1/12

No.6

金田自治会で「そば打ち教室」が開催され、住民10人が参加しました。

これは不耕作地を活用したソバ栽培をきっかけに始まった取り組みで、地域のそばを打ち、味わう活動は、長年にわたり地域のつながりを育んできました。

教室は「口和そばの会」のメンバーの協力のもと、参加者が地元産のそば粉を使ってそば打ちに挑戦しました。出来上がったそばは、元調理人の住民が考案した特製の鶏だしで「かけそば」に調理され、地域の「とんど」で来場者へ振る舞われました。

そば打ち教室の参加者は「久しぶりのそば打ちで緊張したが、喜んでもらえてうれしかった」と話しました。



▲熱心にそば打ちを学ぶ参加者

## 故郷へ錦を飾る

市長への表敬訪問・1/22

No.5

岡山県の創志学園高等学校ダンス部が、12月に群馬県で開催されたチアリーディング世界選手権で優勝し、同部に所属する東城町出身の**新本聖来さん**が市長へ表敬訪問を行いました。

新本さんが優勝したのは、チアダンスにヒップホップなどの要素を取り入れ、ダンスの技術や表現力、チームワークが重視されるアーバンチアダンスのシニア部門です。台湾やドイツなど各国の代表5チームが出場する中、日本代表として技の完成度などで高い評価を得ました。

新本さんは「ダンスと学校生活を両立させながら、妥協せず上を目指したい」と話し、八谷市長は「けがをしないよう気をつけて頑張ってもらいたい」と激励しました。



▲八谷市長（左）から花束を受け取る新本さん

## 食から始まる相互理解

食文化交流会・2/15

No.2

庄原市保健福祉センターで、中国の旧正月「春節」を祝うため、庄原市日中親善協会が主催する「食文化交流会」が開催され、27人が参加しました。

これは、日本と中国の友好の発展に貢献することを目的に、両国文化の理解を深めるための取り組みです。

当日提供された「火鍋」は、日本料理の鍋やしゃぶしゃぶに似た中国の伝統的な鍋で、うまみのある辛いスープが特徴の料理です。また、中国の水餃子はモチモチとした食感が特徴で、子どもから大人まで人気のある料理です。

参加者は「一緒に調理や食事を楽しむことで、互いを親睦を深めることができた」と話しました。



▲料理を楽しみながら会話を楽しむ参加者

## 高野の冬を盛り上げる熱戦

雪合戦ひろしま 2026in高野・2/1

No.1

第29回広島県雪合戦大会「雪合戦ひろしま 2026 in高野」が高野スポーツ広場で開催され、県内外から45チームが参加しました。

前日までに降った雪で白く染まった会場では、ジュニア、レディース、一般の部のそれぞれで熱戦が繰り広げられ、一般の部Pリーグでは、地元高野の「**雪人**」が優勝し、北海道で行われた「昭和新年国際雪合戦」に代表として出場しました。

試合以外にも、会場では雪中宝探しや雪だるまに雪玉を当てるピクトリースロー、また新たに会場内を巡るスタンプラリーも行われ、多くの人でにぎわっていました。



▲熱戦を繰り広げる参加者

## 言葉の力で、つながる心

日本語学習者による日本語スピーチコンテスト・2/8

No.8

口和自治振興センターで、しょうばら国際交流協会が主催する「第22回日本語学習者による日本語スピーチコンテスト & 交流会」が開催され、約120人が訪れました。

当日は市内や近隣市町から集まった8カ国19人の発表者が、日本語学習や日本の生活から得た学びなどについて日本語で発表しました。

金賞を受賞されたマレーシア出身のノール・シャラファナ・ピンティ・フィローズさんは、日本語の難しさに直面しながらも、日本語を使っておばあさんを助けた経験から、日本語の「一期一会」という言葉に心を打たれ、日本語学習への自信と勇気を取り戻したことについて話しました。



▲日本語スピーチコンテストの参加者

## 庄原の自然豊かな溪流を知ろう！

公開講座「幻の溪流魚 ゴギの生態講座」・2/1

No.7

比和自然科学博物館で、幻の溪流魚ゴギの生態講座が行われ、市内外から53人が参加しました。

イワナ属の一種であるゴギは中国山地にしか生息しない貴重な魚で、市内の溪流にも生息し、区域が指定された天然記念物（市指定・県指定）として保護されています。

近年、本市出身の愛媛大学大学院生である**佐々木悠人さん**がひろしま県民の森の溪流域でゴギの生息状況調査を行い、貴重なゴギの現状を広く知ってもらいたいという思いから、今回の公開講座開催につながりました。

講座では、ゴギの特徴や生息状況調査結果、ゴギから見た自然を守ることの意義などの説明がありました。

参加者は「ゴギの保護には、自由に行き来できる魚道などが必要であることがよく分かった」と話しました。



▲佐々木さん（左）の説明に耳を傾ける参加者

## 北方四島の返還を願って

北方領土の早期返還に向けた街頭啓発・2/6

No.4

「北方領土の日」を迎えるにあたり、市内店舗3カ所で街頭啓発活動が実施され、庄原青年会議所、戦没者遺族会、地域女性団体連絡協議会、広島県隊友会庄原支部、連合広島備北地区連絡会などから19人が参加しました。

2月7日の「北方領土の日」は、北方領土問題に対する国民の関心と理解を深めるため、昭和56年1月に定められ、毎年、全国的な返還運動が展開されています。

当日、参加者は店舗に訪れた人に啓発用チラシ入りのポケットティッシュを配布し、北方領土問題の早期解決を訴えました。

参加者は「この活動が北方領土の早期返還につながることを願っています」と話しました。



▲店舗に訪れた人に対して啓発活動を行う参加者

## 子どもと高齢者がつなぐ笑顔の輪

認知症カフェ「コスモスカフェ」・1/8

No.3

西城保健福祉センターしあわせ館で開催された認知症カフェ「コスモスカフェ」に、西城小4年生の児童18人が訪れました。

これは同校の総合的な学習の取り組みの一つで、「西城の人を笑顔に」というテーマのもと「高齢者を笑顔にしたい」という思いで行われました。

最初に小学生が考案したボールや紙コップなどを使ったゲームを、カフェの参加者と一緒に楽しみました。その後、正月にちなんだ「黒豆」「おもち」「えび」の3グループに分かれ、互いに会話を楽しみました。

この交流は今回3回目、回を重ねるごとに児童と高齢者の距離が近づいており、参加者は「元気な笑顔をありがとう。私も元気で頑張ります」と話しました。



▲ボールを使ったゲームを楽しむ児童と参加者